

# 貝殻追放

「海上日記」の序

水上瀧太郎

青空文庫



大正元年の秋北米合衆國に渡り同三年の初夏の頃迄東部マサチユセツ州ケムブリツヂの學校町の下宿の二階に一年あまりを送つた間に書いたものを集めて一冊とした。

その頃自分はそれ迄に書いた自分の作品の誇張と銜氣に冷汗を覺えると同時に世上行はるる小説戲曲評論の類の小伶俐と恫喝に厭氣がさし先づ努めて自分の持つてゐる慣習的の技巧を振捨てようと考へた。所謂小説らしい小説やお芝居らしい戲曲と絶縁する爲めの消極的手段として日記を記す心持で書いて見ようと思つた。この集に收めた四篇は手習艸紙のつもりで書いた夥しい原稿の中の一部である。「船中」と「同窓」は途中で厭になつて止めたの

を後に加筆稿了し「楡の樹蔭」はその頃の日記の中から拾ひ集めた彼地の夏の小景を叙したものでこれだけは新しく書いたと云ふ方が適當かもしれない。いづれにしても作品の内容を成す素材は自分の想像の所産であるからこれを自分の日記と呼ぶ事は出来な  
いが創作の態度に至つては旅客が旅舎の一室にその日その日の見聞を手帳に記すのとははらなかつた。平調枯淡に過ぐるの譏は作者が甘んじて受くるところである。この度一冊に纏めて出版する事になつたので二度三度繰返して讀んだが不相變自分を満足させなかつた。こんなものを本にするのは羞しくもあるが同時に又これらの作品を書いた當時の自分自身を懐しむよすがとして流石に捨て難くも思はれる。冬は雪に埋もれ夏は汗に堪へ難き楡の樹蔭

の貧しき下宿の西向の窓に机を据ゑて學業の餘暇に筆を執つた自分の姿が彷彿として浮んで來る。この集を世に出す事になつたのも主として自分自身を限りなく戀しく思ふ心持に基くのである。

（大正六年の秋）

——「三田文學」大正六年十一月號



# 青空文庫情報

底本：「水上瀧太郎全集 九卷」岩波書店

1940（昭和15）年12月15日発行

入力：柳田節

校正：門田裕志

2005年1月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 貝殻追放

## 「海上日記」の序

2020年 7月13日 初版

### 奥 付

発行 青空文庫  
著者 水上瀧太郎  
URL <http://www.aozora.gr.jp/>  
E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)  
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU  
URL <http://aozora.xisang.top/>  
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks  
青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>